

長野県富士見町で生育が確認されたキクバツルデンダ (オシダ科)

大塚 孝一*・松下 茂**・小林 智子**・野崎 順子**

New record of *Polystichum craspedosorum* f. *dissectum* (Makino) Okuyama
(Dryopteridaceae) from Fujimi Town, Nagano Prefecture

Koichi OTSUKA*, Shigeru MATSUSHITA**, Tomoko KOBAYASHI** and Junko NOZAKI**

長野県富士見町でキクバツルデンダ (オシダ科) の生育が確認されたので報告する。長野県では今まで知られていなかった。

キクバツルデンダ *Polystichum craspedosorum* (Maxim.) Diels f. *dissectum* (Makino) Okuyama はオシダ科イノデ属の常緑性シダで、ツルデンダ *P. craspedosorum* f. *craspedosorum* の羽片が深裂する型である。

本種は高知県横倉山で発見され、牧野富太郎によりツルデンダの変種 *P. craspedosorum* var. *dissectum* Makino, in B.M.T.26: 385. として記載された (Makino 1912)。

Makino(1912) の記載では、

「var. *dissectum* Makino, var. nov.

Pinnae pinnate-parted; lobes oval to broadly linear, erect-patent, pauci-inciso-dentate towards the apex, the upper lowest one larger, obovato-cuneate.

Nom.Jap. Kikuba-tsurudenda (nov.)

Hab. Prov. Tosa: Mt. Yokogura (S.Oda! 1901)」

と、Pinnae pinnate-parted (羽片は羽状に深裂する) とされ、葉が切れ込むことが特徴になっている。変種小名 *dissectum* は「深く切れ込んだ」を意味する。

なお、タイプ標本の「Tosa: Mt. Yokogura (S.Oda! 1901)」は牧野標本館にあるとされるが、加藤他 (2022) によれば、牧野標本館には緒田千齡 (S.Oda) の標本は見当たらないとされる。また、山本 (2004) は「牧野富太郎博士発表のシダ植物」をまとめた際も、牧野標本館に本種の標本は見当たらないとしている。標本が見当たらないことや、Makino(1912) の記載文に図が掲載されていないことなどから、本種の画像等を見る機会がないのかもしれない。

その後本種は、奥山春季が詳しい説明なしに品種

としている (奥山 1955)。分類学的位置については、変種とする (岩槻 1992、志村 1996)、品種とする (杉本 1979、米倉 2012、海老原 2017)、ツルデンダと区別しない (田川 1959、中池 1992) などがある。さらに Nakaike(1975) は、奇形種として *P. craspedosorum* monstr. *dissectum* (Makino) Nakaike, in Enum. Pterid. Jap.242.1975. とし、志村 (1992)、山本 (2004)、中池 (2018) もこの位置づけをした。Iwatsuki(1995) は分類学的位置づけをせず、ツルデンダの解説中のノートとして、標本は採られているが種構造を決定できるような解析ができていないとしている。現在では品種とするか、区別しない立場が多い。

本種の日本における分布については、存在がほとんど知られていないのか、分布が少ないのか、あるいは区別していないのか不明であるが、記載された文献が少なく、杉本 (1979) は分布を本州 (上野) 及び四国、志村 (1992) は四国 (高知県)、海老原 (2017) は高知県としていて、既知産地は限られている。

近年の地方植物誌を見ると、「神奈川県植物誌 2018」(2018)、「岐阜県植物誌」(2019)、「群馬県植物誌改訂版」(1987)、「埼玉県植物誌 1998 年版」(1998) など他のほとんどの植物誌を含め本種の記載がなく、全体の分布状況はわからない。ネット検索でもほとんど情報がなく、それほど珍しく人目に触れない植物であると思われる。また、「JBIF 日本生物多様性情報イニシアチブ 標本・観察データ検索」においても、本種の標本データの存在が確認できない。

植物誌などに本種の記載がある文献としては、「高知県の植生と植物」(1978) があり、「f. *dissectum* Okuyama キクバツルデンダが横倉山で記載されている」と記述されている。また、「北海道高等植物目録 I シダ植物・裸子植物」(1985) に北海道に分布があるとの記述はないが、ツルデンダの異学名・

* 大塚孝一 長野県長野市 kootsu51@yahoo.co.jp

** 茅野市八ヶ岳総合博物館市民研究員

異和名として記載がある。「不思議の森から（横倉山自然の森博物館ニュース）」（2014）には、高知県横倉山のキクバツルデンダについての記述が、「土佐・横倉山植物目録」（大倉 2014）と「植物学者・織田千齡のメモ」（安井 2014）にある。「高知県植物誌」（2009）では目録中のツルデンダの解説文中に、「キクバツルデンダ [var. dissectum Makino] は高知県横倉山（越知町）の標本を基に記載された羽片が深く切れ込む型だが、本種の変異の範囲に含まれる」とあり、区別していない。

長野県においては、「長野県植物誌」（1997）や「長野県植物目録」（2017）、「長野県のシダ植物」（1987）、「富士見町の植物」（1979）には記載がなく、また杉本（1963-1966）、横内（1983）などにも記載がなく、存在が知られていなかった。

以下に富士見町での発見の経緯及び生育地の状況を記す。

発見の経緯

2023 年 4 月 17 日、著者の松下、小林、野崎の 3 名が富士見町の植物調査中、最初に松下が見慣れないシダが岩上に着生しているのを発見した。その後その存在が大塚に知らされ、経過観察することにした。大塚も見ることがなかったので、同年 9 月 23 日に 4 名で再度現地を訪れ、生育状況などを確認した。現地は山奥であるが、希少な植物なので詳しい場所の紹介は控えたい。

生育地の状況

生育地はカラマツ植林内の岩場で、周囲の植生はクリ *Castanea crenata*、ウリハダカエデ *Acer rufinerve*、フサザクラ *Euptelea polyandra*、チョウジザクラ *Cerasus apetala* var. *tetsuyae* などの木本植物とヒトリシズカ *Chloranthus japonicus*、クサコアカソ *Boehmeria gracilis*、オウレンシダ *Dennstaedtia wilfordii*、ツルデンダ *Polystichum craspedosorum*、ミヤマスマレ *Viola selkirkii*、エイザンスミレ *V. eizanensis*、ミツバアケビ *Akebia trifoliata* などが見られた。

生育する岩場は、斜面から露出した岩のくぼみがある場所で（図 1-A,B）、その岩上の縦約 1 m、横幅約 2.5 m の範囲に、87 個体あった。葉長は最大株の最長葉で 7.5 cm、平均して 4 cm から 5 cm くら

いであった（図 1-C,D,E）。さらに小さな個体もあり、隣接して親株がないものも多くあることから胞子でも繁殖していると考えられる。ソーラスが着いた個体は、全個体の 10% ほどであった。葉の先に無性芽から生じた幼株をつけた個体も見られた（図 1-F）。生育場所ではツルデンダ f. *craspedosorum* は 1 個体あったものの、他すべてキクバツルデンダ f. *dissectum* でほぼ純群落をなしていた。

証拠標本

長野県富士見町富士見：松下茂，小林智子，野崎順子 s.n., 17 Apr. 2023 (NAC); 同地，大塚孝一，松下茂，小林智子，野崎順子 s.n., 23 Sept. 2023 (NAC).

今回、長野県の花ラに加入することができた。本種は主に品種としての位置づけがされている。Tagawa(1940) は「邦産イノデ属の分類 1」において、変種と認めつつ標本は検討していないとし、土佐で良く知られたボタニストの T. Yoshinaga は区別の必要がないであろうとしていることを紹介している。富士見町の現地では生育状況からみて遺伝的にも固定されていると考えられ区別すべきものであり、単なる葉の形態変異として良いのかさらなる検討が必要と思う。

本稿をまとめるにあたり、神奈川県立生命の星地球博物館の石田祐子氏には植物誌等の資料情報の収集にご協力いただいた。感謝いたします。

引用文献

- 海老原淳（2017）日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ，学研プラス．東京．
- 富士見町教育委員会（1979）富士見町の植物，富士見町．
- 伊藤浩司・日野間彰・たぐん総合研究所（1985）北海道高等植物目録Ⅰシダ植物・裸子植物，たぐん総合研究所．札幌．
- 岩槻邦男（1992）日本の野生植物 シダ，平凡社．東京．
- Iwatsuki, K. (1995) *Flora of Japan* Vol. 1. Pteridophyta and Gymnospermae, Kodansha Tokyo.
- JBIF 日本生物多様性情報イニシアチブ・標本・観察データ検索, https://gbif.jp/gbif_search/

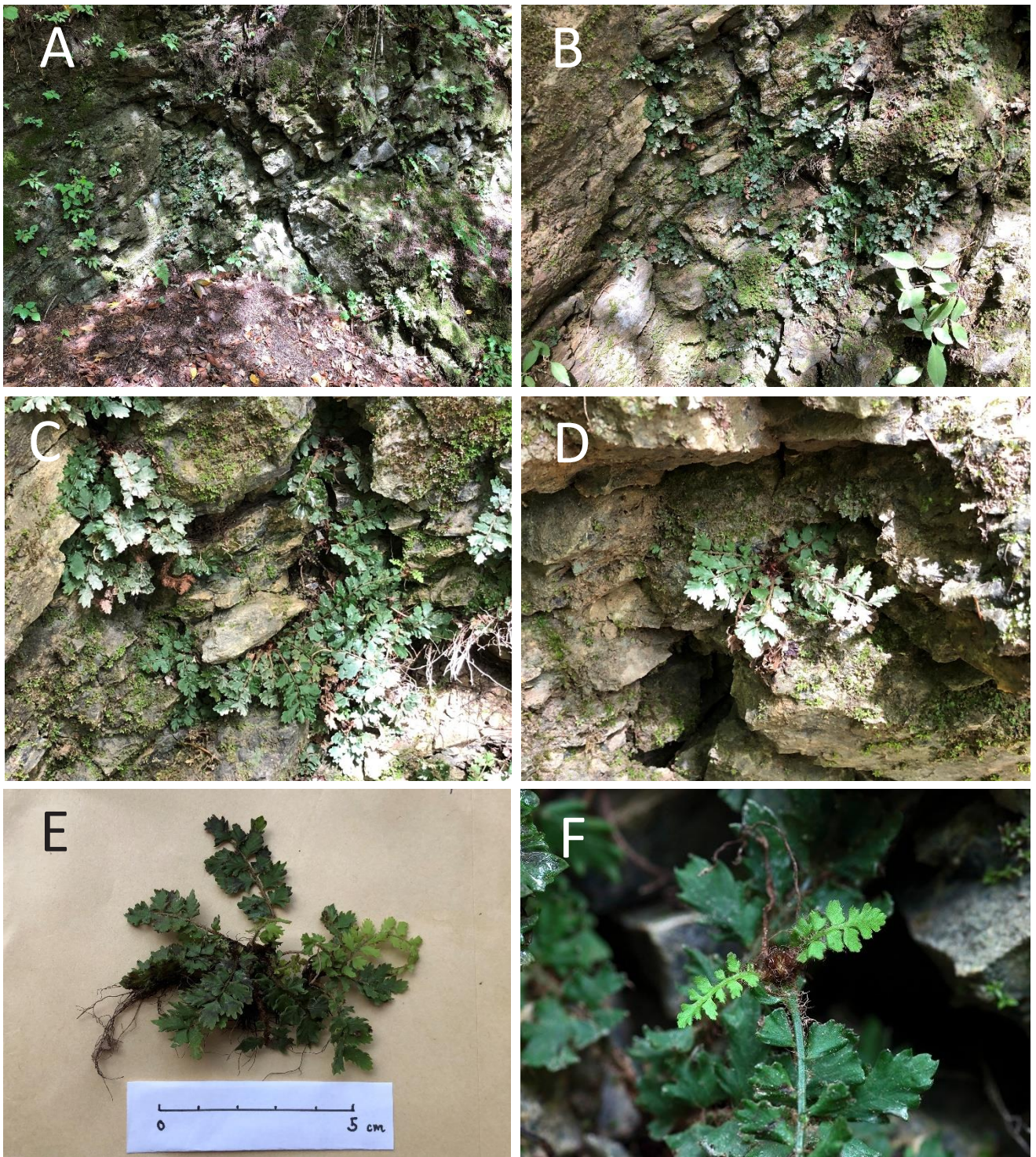


図1 キクバツルデンダ. 富士見町, 2023.9.23.

A & B : 生育環境, C & D : 生育状況, E : 標本 (2023.4.17 採取), F : 無性芽から発生した幼株.

- (2023.11.29 確認)
- 加藤偉重・甲田龍太郎・山本正江(2022) 牧野富太郎のシダ論文とその標本. 銀河書籍.
- 高知県・高知県牧野記念館(2009) 高知県植物誌.
- Makino,T.(1912) Observations on the Flora of Japan.B.M.T.26: 384-399.
- Nakaike,T.(1975) Enumeratio Pteridophytarum Japonicarum Filicales,University of Tokyo Press.
- 中池敏之(1992) 新日本植物誌シダ編改訂増補版, 至文堂. 東京.
- 中池敏之(2018) 日本のシダ目録 第2版(改訂増補版), 羊子社出版部.
- 長野県植物目録編纂委員会(2017) 長野県植物目録, 長野県植物目録編纂委員会. 長野.
- 大倉浩典(2014) 土佐・横倉山植物目録, 不思議の森から(横倉山自然の森博物館ニュース) Vol.31: 2-4.
- 大塚孝一(1987) 長野県のシダ植物, 信毎書籍出版センター. 長野.
- 奥山春季(1955) 園芸植物新考(1), 植物研究雑誌 30: 30-44.
- 清水建美監修・長野県植物誌編纂委員会(1998) 長野県植物誌, 信濃毎日新聞社. 長野.
- 志村義雄(1992) 日本のイノデ属, 静岡新聞社(編).
- 志村義雄(1996) 新日本産シダ植物総目録, 志村義雄.
- 杉本順一(1963-1966) 長野県植物総目録, 長野林友(1963年から長野林友に連載され1966年に完結した).
- 杉本順一(1979) 日本草本植物総検索誌Ⅲシダ編(改訂増補), 井上書店. 東京.
- Tagawa,M.(1940) Polystichum of Japan, Korea, and Formosa 1. A.P.G.9:119-138.
- 安井敏夫(2014) 植物学者・織田千齡のメモ, 不思議の森から(横倉山自然の森博物館ニュース) Vol.31: 4-6.
- 山岡和興(2002) 高知県のシダ植物, 山岡和興, 高知.
- 山中二男(1978) 高知県の植生と植物相, 林野弘済会高知支部. 高知.
- 山本明(2004) 牧野富太郎博士発表のシダ植物, 山本明.
- 横内斎(1983) 信濃植物誌, 信濃植物誌刊行会. 銀河書房.
- 米倉浩司(2012) 日本産維管束植物目録. 北隆館. 東京.